

「全鍍連」 2019年9月号 理事長のよこがお

兵庫県鍍金工業組合 理事長 高橋 宏忠

「日本のゴルフの発祥地 神戸」



前回は、腰痛に苦しんだ拳句、手術に踏み切った経緯について書かせて頂きましたが、今回は私が生まれ育った神戸について少し触れさせて頂きたいと思います。

私は、生まれも育ちも神戸。神戸に生を受けてから今日まで一度たりとも神戸の土地を離れて生活をしたことがございません。正に生粋の神戸っ子です。年齢 66 歳になって、〇〇っ子なんて言う表現には、さすがに自分自身でも違和感を感じてしまいますが。

神戸は、重厚長大産業で発展してきた町ですし、また六甲山系に抱かれた神戸は、大型船が入出港出来る深い海に恵まれた地形を活かし、世界有数の国際貿易港としても発展して参りました。明治維新以降、外国の商社が神戸に拠点を置き、国際化が進んでいきましたが、その中でも最も有名なものが、幕末から明治初期にかけて長崎で確固たる地位を築き上げたグラバー商会の神戸進出です。神戸支店開設の特命を受けて 1868 年にイギリスから神戸にやってきたのが、弱冠 22 歳のアーサー・ヘスケス・グループと云う人物です。彼は、1918 年に神戸で没するまで、神戸の発展に様々な貢献をされたそうです。その中でも最も有名な貢献の一つに触れてみたいと思います。

グループは、神戸元町に居を構え、日本人と結婚し、こよなく日本を愛し、貿易商として成功を収めたスポーツマンだったそうです。

グループは、六甲山の自然を愛し、眺望の美しさに惹かれ、避暑地として六甲の地に山荘を建て、週末には仲間との団欒の場として楽しいひと時を過ごしていたようです。

ある時、グループの仲間の一人から『香港でもゴルフが出来るそうだと云う話を聞いたグループが、『ここ六甲の地にゴルフ場を造ろうじゃないか』と言い出したと伝えられています。グループが 50 歳を過ぎた 1896 年から手作業でのコース造りが始まり、3 年の歳月を懸け、苦勞の末に漸く最初の 4 ホールが完成しました。9 ホール完成の目処がついた 1903 年 2 月 27 日に神戸商工会議所で「神戸ゴルフ倶楽部」の創立総会が開催され、その年の 5 月 24 日に神戸ゴルフ倶楽部の開場式が行われ、日本初のゴルフ倶楽部が誕生しました。現在では、この日を「ゴルフ場記念日」と定められているそうです。

1904 年には、さらに 9 ホールが拡張され、全長 3576 ヤード、パー-60 の 18 ホールが完成しました。18 ホールのティー

インググラウンドやパッティンググリーンは、全て砂を固めて造られており、六甲のサンドグリーンとして長い間名物的な存在だったそうです。開場から 40 有余年の歳月を経て、サンドから高麗芝になり、現在はベントグリーンに張り替えられています。

日本のゴルフ場の先駆けとして「神戸ゴルフ倶楽部」が開場してから今年で 116 年。

ゴルフ人口の増加に伴って、今や兵庫県下では、160 カ所近いゴルフ場が存在し、全国では、2300 カ所を遥かに上回るゴルフ場が運営されています。

因みにゴルフ場の数の多い都道府県別のベスト 3 は、1 位北海道 2 位兵庫県 3 位千葉県だそうです。

神戸ゴルフ倶楽部は距離が短いと云えども、パー3 のホールとしてはそこそこ距離もあり、グリーンも小さいし、クラブの本数も 10 本という制限もあって、プレーヤーの力量によって評価が分かれるところかも知れませんが、結構難易度は高いと思います。

一度神戸観光を兼ねて、話の種に日本最古のゴルフ場でプレーを楽しまれたら如何でしょうか。

斯云う私も、ゴルフを始めて 45 年のキャリアになりますが、神戸に住みながら実は神戸ゴルフ倶楽部には未だ 2 度しか廻った事がございません。